

理事会便り

第8回 常任理事会議事録

日時 昭和35年11月25日 14.00~17.30

場所 東京管区気象台長室

出席者 正野, 畠山, 有住, 根本, 松本, 桜庭, 吉武, 岸保, 淵各理事(順序不同)

本理事会は定款改正に関する討論だけを行う予定であったが, 全国理事会が止むを得ない理由で12月1日に開催できなくなったので, これに関連する議題が追加されたような決議を行なった。

決議 1. 日本学術会議地球物理学研究連絡委員会気象分科会委員候補者の推薦については前記の委員候補者の推薦にあたり全国理事会(昭和32年11月開催)で決定した主旨に則り, 次のような方法をとることになった。

(1) 地球物理学研究委員会の仕事は主に IUGG と関連し, 国外および国内の研究連絡に当ることであるので, 研究機関別候補者として下記に者を推薦する。

北大 孫野 長治, 東北大 山本 義一
東大 正野 重方, 京大 山元竜三郎
九大 沢田 竜吉, 気象研 小平 吉男

(2) 気象機関代表および研究者代表を夫々2名ずつ推薦する。

この4名は下記各候補者中から各代表別に

2名を無記名投票によって決める。

A. 気象機関代表候補者

山岡 保, 柴田淑次, 肥沼寛一, 畠山久尙, 大谷東平, 倉石六郎。

B. 研究者代表候補者

有住直介, 神山恵三, 岸保勘三郎, 根本順吉, 今井一郎, 吉武素二, 松本誠一, 荒川秀俊, 高橋浩一郎。(いずれも順序不同)

2. 同上委員会陸水分科会の委員候補者には次の各氏を推薦することとなった。

小平吉男, 大田正次

3. 昭和36年度文部省科学研究費等分科審議会委員候補者の推薦については, 第1回は当学会から正野重方氏を推薦し, 第2回は全体の中から次の3氏を推薦することとなった。

正野重方(気象学会 東京大学)

日高孝次(海洋学会 //)

水上 武(火山学会 //)

4. 全国理事会を12月12日に開くこととなった。

5. 定款改正に関しては桜庭委員から内容の説明があり, 種々検討ののち, あらためて前記全国理事会で討議することとなった。

気象界消息

1. 東パキスタンにまたも台風

10月10日台風に襲われた東パキスタンのチャッタゴン海岸に, 1月31日(月)夜またも台風が襲来, 時速100マイルの風が吹き荒れ, 高さ35フィートの高潮を伴い, 最もひどかったサンドウィッチ, ハチア, ラムガチの諸島では, 数軒の家が残るのみだった。数百人の漁夫が波にさらわれ, 死者総数は4,000名に達したもようである。

2. 英国気象局, 摂氏とメートル法を採用

英国気象局からWMO事務局への通知によれば, 第3回世界気象会議決議30を適用するために, 英国は1961年1月1日から国際交換のためのすべての気象通報に摂氏とメートル法を用いる。また同局は国内の気象交換にも

同じ単位を用いる。

マラヤ連邦, シンガポール, 英国領ボルネオは, この決議を適用する第一段階として, 同じ日から国際交換のための気象報に摂氏を用いることをきめた。(気象庁ニュースより)